



わがツェッペリン号

われわれは当初より、飛行船および飛行機からなるわが航空艦隊が為したことがらについて絶えず耳にし、それを当然の誇りをもって聞いてきた。特にツェッペリン飛行船隊において、イギリス艦隊の数量的な優位をものともせず、海に囲まれたイギリスに戦争をもたらすような兵器を創造した。

イギリス人は、ドイツ全体を飢え死にさせようと目論んでいたのに、もう誰にも知られていることだが、ツェッペリン号の爆弾によって女子供が死んだと騒ぐ卑劣さにかかわらず、わが航空艦隊のイギリスへの最初の爆撃はドイツ人すべての心に大きな喜びを沸き起こさせた。イギリスへ初めて飛んだ後もつぎつぎに出撃がなされ、それぞれが大きな成果を収めたが、その目的は軍需物資製造工場、貯蔵施設、港湾、沿岸防衛施設などを破壊することであった。そしてわが航空編隊がどれほど任務を全うしたか、わ

われわれはイギリス政府がツェッペリン号によって加えられた被害について外国には何も漏らさないよう全力をあげているにもかかわらず、よく知っている。

ロンドン自体がツェッペリン号からの脅威のために夜は暗闇に閉ざされている。わが海軍軍令部が私有財産よりむしろ兵器および弾薬工場の生産活動を共に破壊することに重きをおいていることは、わが国飛行船がイギリス上空上空を飛ぶ経路をよく観察すれば直ちに見て取れることである。ロンドンを除くと、ほぼ例外なく港湾、沿岸防御施設、製鉄・鉄工所とそれに類似した工場を見舞っている。罪もない不幸な犠牲者には敵と同様われわれも深く遺憾の意を表したいが、彼らを除いてもイギリスに強い打撃を与えたことは今日疑いをはさむ余地もないことである。

この数週間、わが国航空編隊の活動は以前にまして増大している。3月31日、4月1日、2日に行われたイギリスへの空爆は3回を下らない。飛行船のうちの一機、すなわち L15 は機械の故障か、イギリス軍の銃撃によるものか — イギリスからの報道はこの点に関して一致をみないが — イギリス沿岸から遠くない海上に降下し、その際イギリス哨戒艇の攻撃を受けた。乗組員は降伏し、飛行船は曳航されたが、まもなく沈没した。

最近の攻撃では何機かの飛行船がイングランド北東沿岸とスコットランドへ経路を取り、この一連の行動で飛行時間に関し戦時中の開戦以来の最長記録をどうやら打ち立てたようである。

われわれは、わがツェッペリン号がスコットランド北端のオークニー諸島にまで出かけたというニュースの来る日を心待ちにしている。この諸島の湾はイギリス艦隊の大部分が逃げ込んだとされるのである。スコットランドとイングランド北東沿岸への飛行はオークニー諸島に向かう一連の動きの先駆けなのであろうか。

演 劇

フリッツ・フリートマン＝フレデリヒの 『マイヤー家の人々』

ここでは現代喜劇の全要素が見いだされた。登場人物はしばしば非常に戯画的であり、機知に富んだウィットと小さな社会的、政治的風刺を利かせたコミカルなシチュエーションにあふれる作品である。恋をした若者が、貴族であることを誇りにする義母のために自分の評判の高い市民階級の名前を捨てるが、その養子縁組の際に徹底的にだまされて、結局、家中がワイン行商人や料理番や乳搾りといった親戚縁者で溢れる。しかし最後には常に状況を見渡している実業家の「ユダヤ人的頭脳」が極めて込み入って絡まりあった状況を実に天才的な腕前で解決するのである。『良心の呵責』で深い印象を受けて感じたような、喜劇を比類無く高い段階へ押し上げる真面目な背景はまったく無い。

マイヤー家の人々全員が、「黄金の若者」の祝賀会に順々に姿を見せる。愛すべき優雅さで世間をその柄付きのメガネ越しに眺めるマイヤー家のおばあさま、結婚願望の小娘、金の鼻眼鏡をかけた威厳に満ちたマイヤー枢密顧問官。そのそれぞれが一生懸命、これは決して「ユダヤ人」の喜劇ではないのだとわれわれに訴えかける。一家全員が物語の始まる前にすでに秘蹟の聖水で額を濡らしているのである。「さて、またみんなが集まったではないか。」小柄な老人がすこし前屈みになり、せわしなく両手を動かしながら悠然とはあるがツボを心得た話しぶり、このようにモーリッツ・マイヤーが登場する。話が突然の展開を見せても、そのいずれにも対応し、しかも自分を失うことがない。自分の職業と一家の伝統に確信をもっている。「内閣の場合なら、— どんな大物になれるかといえば、— 運がよければ— 帝国首相だぞ」。この彼と対照的なのが、旧姓が男爵フォン・デア・キュヒェという彼の妻であって、立派な身なりで控えめな態度、言葉を選びながら話し、作法にうるさく、それでいて誇り高く、うぬぼれている。しか

し最初の機会では彼女の人を見る目の浅はかさ、彼女の見栄っ張りな人となり覆い隠されている。セザールとエルネスト・ド・ラロシュはその高貴そうな名前によって彼女をとりこにする。エルネストは彼女にまず自分の職業の目印を使って自分の人となりを説明しなければならない。セザールは言葉に少しフランス訛りがあり、騎兵としての完璧な礼儀をそなえていて、彼の妻が突然到着して幻惑から目を覚まさせられるまで、彼女を惑わす。この彼女と対比をなすのが「原始ゲルマン人」のシュトレゼマンと強烈に戯画調の東プロイセン農場主のモンバーとクーゲライトである。彼らの「かあちゃん」は教養が完璧で、コーヒーを受け皿に移してからすするのである。世界都市育ちのジャック・マイヤーとパウアーの2人の友人と田舎育ちの娘のエディトは器用で軽やかな演技によって性格づけのあまりない役どころを生氣あるものになっている。

作品の舞台装置、趣味の良い調度品の整ったセンスあふれる新しい部屋、きらびやかな衣装とかつらからは多くの恋と運命とが暗示される。すべてがこのセンセーショナルな社会劇の上流家庭に見合うものであった。

収容所展望

スポーツ愛好家たちは先週あれほど頻繁に身体を動かせたというのに、今週は物足りない思いをすることになった。日曜日に運動場にやって来たところ、電気会社の作業員たちが電線や道具類をそこに広げていたために、スポーツをするなど問題外であった。日本人将校が商業学校の校庭に案内してくれたが、そこではファウストバルとシュラークバルを何組か行えるだけの場所があった。その帰途、偶然にもシュレーダー牧師と再度あいさつを交わすことになった。その日の午前中に、非常に信仰を深め、とりわけ心に深く刻みこまれるような説教をしていただいたのだが、その言葉は本当にわれわれの置かれている状況にぴったりのものであった。月曜日と

火曜日は、運動場で電気工事の作業員たちが宴会をしていて、競技ができなかった。その次の2日間は日本の祝日に当たるため競技は休み、そのかわり津田の丘への外出が行われた。これらの日に祝われている節句、雛祭は日本の主な祝祭5つのうちのひとつである。何週間も前から、数多くの店にありとあらゆる人形が展示されているのが見られた。それらはたいてい昔の日本の衣装をまとっていた。祝日の間、市民たちの大半は遠足をする。眉山の遊歩道がもっとも多く選ばれる行き先のひとつである。収容所からも遊歩道が散歩者で埋まり、展望の利くところや、お茶屋の中や周辺にももちろんのこと、祝日をたのしむ人々が集まり、「精神的」かつ肉体的な楽しみにひたっているのが、収容所からも眺める事が出来た。いつもは人の少ない眉山の山頂にも元気な登山者の姿も見られた。収容所の横をいくつもの集団が通り過ぎたが、かわいい若い人が本当に多かった。暖かい気候のために羽織などを脱いでいて、彩り豊かな帯と着物の優美な女性が幾度となく姿を見せた。遠出を楽しむ人たちは、必要な食料を携えていて、ご飯とおかずの入った、いろいろな色彩のベントー箱を手にしていて。ベントー箱にはさらに、水か茶の入ったひょうたん、又はそんな形をしたガラス瓶がぶら下がっている。大人たちはたいてい、この国で飲まれているサケを楽しみに加えている。

故国からの郵便は途絶えたままである。ただこの間に、今月と先月分の「賃金」(義援金)が届いて、支払いを受けた。木曜日には最初のツバメが飛来した。これが夏の兆しであると良いのであるが。自然愛好者にとっては、昨日の日の峰(または三景とも呼ばれる)への遠足は特別に楽しいものであった。比較的単調な津田までの道は、みんなが十分に知っているところであるが、そこからいくつか橋を渡り、水路に沿って木におおわれた山に入り、山を越え、まだ土を起こしていない稲田の中を通過して、小松島の北にある一番高い丘に立てられた神社にまでたどり着いた。通ってきた道は、ほとんど疲れるほどのものではなく、次から次へと新しい風景を展開してくれる。神社からの展望はおどろくほどであった。すぐ足下には、

松に縁取られた湾に望む小松島がある。何人かはずらそうに、1年半前にわれわれが上陸した場所へと視線を向ける。おそらく、再びそこで帰国の途につくことになればと思っていたのだろう。

小松島から徳島に到る間には、多くの水路の横切る緑の平野に村々が横たわり、中津峰から眉山に連なる様々な姿の山地がそれを半円形に取り囲んで印象深い。北には陽光を受けて海がキラキラ光り、風でわずかに波立っている。

小休止の後、人里離れた大神子^{おおみこ}の海岸へと下りていった。ここはおそらく、われわれが行ける中で最も美しい場所である。高い松の林が浜のすぐ側まで茂り、半円形の入り江の両側は山と荒々しい岩礁に囲まれている。詩情など無関心の連中は、持参した食べ物をほおぼり、長い昼寝を取った。ひよっとしたら、松の梢のざわめきと打ち寄せる波の音を聞きながら、夢想到にふけていた者もいたかもしれない。

帰り道は、低い峠を経てふたたび来た道に戻り、約2時間で収容所に到着した。好天に恵まれ、うすく雲がかかって、暑すぎる日光をさえぎってくれた。昼頃になって強い東風が吹いてきたが、背中に受けたので、それほど嫌なものではなかった。遠足の参加者は約100名で、収容所全員の内の半数でしかない。他の場所ではおよそ提供されることのない、数時間にしろ俘虜であることを忘れられる、このような機会は誰にとっても歓迎すべきものと思われるのだが。このような遠足の機会は、それほど頻繁ではなくなるかもしれない。もうすぐお日様が、だめだと言う季節になるのだ。

演芸会

今晚7時半からふたたび「寄席」が催される。その演目を以下に載せておこう。

第1部

1. 「ドイツマイスター万歳」行進曲 D. エルトル
 2. 陽気なロタール。喜劇俳優の新しいレパートリーから
 - a. ヴィクトル・ホレンダー作「さあ都へ出かけよう」から「タクシーメーター」
 - b. 森の怪談。羊飼いのトーマス・フリオアデレとニコデムス坊や
 3. ロッティ・ヴァルデン。ウィーンのスープレット¹
 - a. 不快な中断
 - b. なんて厚かましい
 4. グスタヴォ・カルーソー。コンサート歌手
 5. シェッフアー兄弟。パロディー演芸
 6. 桃の実。オリジナル作品の朗読
 7. すばらしき審判。G. テーロ作のコミカル三重唱
テノール、バリトン、バスのための歌による寸劇。
登場人物 シュトレング 裁判官
ヘーゼ 仕立て屋
ハイゼ 野獣および鳥
- 休憩 10分
幻灯（スライド）の宣伝
- ワルツ「キスしたいくらい美しい」 S. ディック

第2部

8. バベットちゃん コミカル二重唱セレナーデ Cam. シュヴァルツ
9. ジムとジャック。アメリカ人の道化。
10. シロフォン。音楽。7本の壘を使った演奏。
11. 『年功序列で』
2幕笑劇

1 軽妙な役のソプラノ

登場人物

フォン・グリースハイム 退役大佐

メータ

リースベト　その娘

フォン・トレスコー 騎兵大尉夫人　フォン・グリー
スハイムの妹で未亡人

アドルフ・フォン・カブレンツ 男爵　槍騎兵隊少尉

ドクトル・ベラルト 軍医大尉

ドクトル・バンスケルナー 医師

下男

第1幕　フォン・グリースハイムの居間

第2幕　2ヵ月後　フォン・グリースハイム家でのパーティ

時代は　現代。

12. 行進曲「音楽を聞きたまえ」

モンクトン

—— 終わり ——

プログラムは入り口にて10銭で購入できます。日曜日の午後2時から4時まで、大広間を舞台稽古のために空けて下さるようお願いします。

慈善援助品

上海在住のドイツ人の方々から、とりわけ大いに喜んでもらえるような慈善援助品が送られてきた。ひとりひとりにソーセージとザウアークラウトの入った缶詰一個が割り当てられる。

上海のわがドイツの同邦人に心より感謝するとともに、長らく口にすることのなかったこのおいしい本物のドイツ料理を大いに味わうことにしたい。

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 101 問の解答

1. Dd2 - d7 任意の手
2. D か T か L で詰み

第 102 問の解答

1. Se3 - g2 Le4 × g2
2. Sa7 × b5 任意の手
3. D で詰み
1. Le4 - c6
2. Sa7 × c6+ K を任意に
3. D で詰み

正解を送ってくれたのは ヴェーバー

課題 103

白：Kc8, Da7, Ta4, d1, La3, e6, Sd4, f4, Bh6

黒：Ke5, Sa2, b4, Ba6, d3

2 手詰め

課題 104

白：Kh5, Df1, Sh6, f3

黒：Kf4, Be5, f5, h6

3 手詰め

袁世凱 (3)

隆裕 (皇太后) は最初、皇帝の退位にはどのような形であれ、反対したようである。そこで北部には清朝を残し、南部を帝国とは独立の共和国とする計画が生まれた。しかしこの計画はあまりにも弱点が明らかなものであったので、生まれるのと同様に消滅するのも早かった。どうやら袁もこ

の計画には断固反対したようだ。いずれにしろ、この間の事情は袁にとってしばらくの間、彼は2つの党派の間に立ってはいるが、そのどちらにも所属していると実際言っても差し支えないものであった。共和国主義者からは皇帝の退位をせまることをためらっているのは彼等の主張への裏切りと理解され、帝室側からは反乱者に対してあまり強力な措置を取らないのは清王朝に対する裏切りだと言われたのである。1月16日の彼に対する暗殺未遂は、当時北部の首都で支配的な雰囲気かどのようなものであったかを最も良く示している。最終的に袁は、清王朝にとって皇帝退位より他の可能性はもはやないと理解したのであろう。皇太后自身、王家に対する天命は尽きたことを認めざるを得なかった。2月12日、彼女は一族とともに竜の玉座を下りることを宣言した。共和国主義者が勝利し、南京はそれを祝った。

つづく



フィエスコはどんな人物だったのか

シラーの悲劇の主人公であるラヴァーニャ伯フィエスコは、もともと綱作り職人、宿の亭主、花火師、競技選手、気象学者、小説作家、脚本家、音楽家、歌手、動物学者、新聞編集者であり、鍛冶屋、鋳物屋、織機、飛行機の所有者であった。要するに非常に忙しい人であって、どうやって陰謀の首領となり、水の中に放り込まれるような羽目になる時間を作り出したのか理解しづらいところである。

上記の職業の証拠に、シラーの原文と照合しよう。

綱作り職人： この職人として彼は（第4幕第13場）盗んだダイヤモンドから「共和国の泥棒を縛り首にするために縄を編んだ。」今日の綱職人にはこんなことはもはやできない。

宿の亭主： ジョネッティオーナは確かに良い習慣を持っていて、もてなしに対し感謝し、彼に対して満足の気持ちを述べる。（第1幕第6場）

同時に彼は花火師でもあった。というのも客人に対しこんな質問をしているからである。花火でお目を楽しませていただけますでしょうか。（第1幕第7場）

競技選手： まるで高貴なるジェノヴァが若き彼の両肩に負われているかのように悠然と歩いてくる男を想像してほしい。（第3幕第4場）

気象学者： 彼は単にムーア人に国家の風向きを求めさせる（第1幕第9場）だけでなく、彼自身風と天候をよく観察していた。嵐が近づいている。雲が集まってきた（第3幕第5場）、私はこの風を利用しなければならない（第2幕第8場）。こうして彼はドリア家をまっふたつにする嵐を予見していた（第4幕第13場）。

彼の文学作品は後世にまったく伝えられていないが、紛れもなく小説作家であった。というも彼は、ジェノヴァの人々が彼の恋愛小説をどう思っているのか知りたいと言っているからだ（第1幕第9場）。

脚本家でもあった。こうはつきり言っている（第4幕第10場）からだ。私はこの紙に君たちみんなの役割を書いたぞ。

彼は音楽家だったことは、「これから君の暗殺を吹聴してやる（原意：トロンボーンを吹きならす）」（第2幕第9場）という言葉が示唆している。さらに太鼓手でもあった。ドリア家の老人をベッドからたたき起こした（直訳：太鼓を叩いて追い出した）（第4幕第7場）からだ。

フィエスコが歌手であった点については、「歌を歌って専制君主たちを眠り込ませた」（第2幕第18場）ということしか分からない。伯爵がすぐれた「動物学者」であったことは、動物の国²について感動的な講演を行っている（第2幕第18場）ことから疑いようがないだろう。

新聞編集者であることは、「君たち、この知らせ（現代では「新聞」）が私のなしたことだとは気づいていないのかい」（第2幕第7場）という言葉から明らかである。

フィエスコは恐ろしいことが作り出される（直訳：鍛造される）（第4幕第11場）鍛冶屋の所有者であった。

鑄造所の所有者というのは、共和国の鑄型に「湯を流す」のにちょうど頃合いだと見計らっているからである（第4幕第4場）。

織機の所有者というのは、部下たちを「職匠の織物」と呼び（第1

2 原文の *das Reich der Tiere* には生物学の「動物界」の意味もある

幕第8場)、ムーア人に「何かわなにかかったか(原意:糸にからまった)」(第3幕第4場)と述べているからだ。

最後に飛行機の所有者というのは、飛んでゆけとジーボに命じているからだ。

このいろいろな苦しみを味わった男が、余暇を楽しんでいた。別にそれでかまわないだろう?カードゲームをしていたのだ。たった一度だけ「自分のカードの手を読み誤った」「抜け目のないゲーマー」であった(第5幕第16場)。ところでラヴァーニャ伯は何のゲームをしていたのだろうか。この問いに答えることは可能だった。もちろん「スカート³」である。なぜならかれはヴェリーナにむかってこう言っているからだ(第5幕第16場)。

「もういらいらさせる⁴のはやめてくれ」

3 ドイツのトランプゲーム

4 原文の reizen には「スカート」で「ビッドする」の意味もある